

# 『平成30年度 北九州市・南九州市子ども交流事業』 親善大使の声

北九州市と南九州市の小学4年生から中学校2年生までの子どもたちが、南九州市の大自然で天体観測を行い、知覧茶のお茶もみ体験や、そうめん流し、蒔絵体験をしました。また、知覧特攻平和会館では語り部さんから講話を聞き、平和について学びました。

素晴らしい夏の思い出と、遠く離れた土地にかけがえのない友だちができました。来年は、北九州市でおもてなしをします。

## 小学5年男子

### 《参加前》

「行ったらやりたいこんなこと」

ぼくは、今年の春「チャレンジ100キロ」に参加しました。知らない人たちと仲良くなったり、協力したりして楽しかったです。そんな体験をしたくて、今回申込みました。

ぼくは、南九州市という市があること、どこにあるかは、知っていました。けれど、どんなものが有名かは、知りませんでした。調べてみると、お茶がおいしいことが分かりました。ぼくは、お茶がとても好きだから、楽しみです。

北九州市の特ちょうは、工業がさかんなところですよ。百パーセント電気自動車「リーフ」は、北九州市で全て生産しているし、世界文化遺産に指定された、八幡製鉄所もあります。また、自然も豊かです。そんな北九州市のいいところを伝えたいです。

### 《参加後》

「いろんなことがあった南九州市」

ぼくは、初めて親善大使として、南九州市に行き、南九州市の文化やどんな所かを学習しに行きました。

ぼくが一番思い出に残っているのは、「お茶もみ体験」と「まき絵体験」です。なぜかという、お茶は大好きだし、まき絵は、上手にできると、とてもきれいだからです。

お茶もみは、ちゃんともみ方があって、ただもめばいいというわけではないんだなと、おく深さを知りました。

まき絵は、ふでを細かくしんちょうにしなくてはいけないから、とてもしんけんになりました。そして、トワエモンとセイコーくんの二人(青少年ボランティアや友人)のまき絵がとても上手だったのでびっくりしました。そして、帰ったら家族や友達にも、体験したことを話しました。

来年は、北九州市に来るから、しっかりおもてなしをしたいです。

## 小学6年男子

### 《参加前》

「南九州市の人たちと」

北九州市ではあまり知られていない、鹿児島県にある南九州市。でも、僕は鹿児島から引っ越してきた友達から、南九州市のいろいろすごいところを聞きました。それでこの交流事業に応募しました。

この事業の中で僕が一番楽しみなことは、南九州市の人たちと会うことです。そして、「どんな方言があるのだろう。どんな生活をしているのだろう。」そんなことを聞きたいです。そして、南九州市の人たちに、南九州市について教えてもらったり、僕たちが北九州市について教えてあげたりしたいです。

この事業を通して、僕の中ではまだ未知の町、南九州市について知り、ふれあいたいです。

### 《参加後》

「南九州市と北九州市」

僕は、この事業に参加し、親善大使として南九州市に行くと、北九州市とは異なるさまざまな文化や歴史を学ぶことができました。

工業の町北九州市は、TOTOの本社があったり、普段からにぎやかな町ですが、農業の町南九州市は、お茶畑が一面に広がって美しい町でした。

僕は、同じ九州地方の人たちと交流したことがなく、北九州市の特徴といわれても、知りませんでした。でも、今回南九州市に行くと、北九州市のいいところ、不便なところがあらためてよく分かりました。

来年は、南九州市の人たちが北九州市に来ます。そしたら、今年残念ながらつぶれたスペースワールドのことや、皿倉山の絶景のことや、八幡製鉄所のことなど、北九州市のさまざまなことを伝えられたらいいなと思います。

## 小学6年女子

《参加前》

「南北交流事業に向けて」

私は、南九州市のことをあまりよく知りません。そもそも、そんな市があるということを知ったのもつい最近のことです。だからまずは、特産物はなんなのか、どういうところが有名なのかといった基本情報から、南九州市のことを知ってほしいと思います。

そして、今回の事業での目標は、「人の話をしっかり聞いて、みんなの知らない新たな南九州市を見つける。」ことです。南九州市の人達は、ずっとそこに住んでいるので、南九州市のことをたくさん知っているはずですが、だから、そういう人達の話がたくさん聞いて、ガイドブックにはのっていない南九州市を見つけたいです。

右も左も分からない土地・南九州市。そこにはどんなものがある、どんなことが分かるのか、今からとても楽しみです。

《参加後》

「南北交流事業を通して」

私は今回、南北交流事業に参加して、とてもいい経験をする事ができました。

まず、「水土利(みどり)館」では、知覧茶の葉を自分の手でもんで作ることができたほか、火山灰の影響で農業に適した場所ではなかった南薩が、火山灰を取り除く事業を行った結果、農業ができるようになったということを知りました。

また、知覧特攻平和会館では、語り部さんから知覧が特攻の最前線であったこと、特攻が行われるようになった理由や、特攻隊員が残した遺書や手紙の説明を受けたほか、特攻のしゅん間を写した、実際の映像を見ました。特攻隊の人達は、きっと家族や愛する人に、もう一度会いたいという気持ちを持ちながらも、国のために死んでしまったのだなと思うと、この人達のおかげで、今の暮らしがあることに感謝するとともに、さみしくて悲しい、なんとも言えないもどかしい思いにかられました。

今回、南九州市に行って、農業の町になるまでの苦労を学ぶことができました。また、特攻という、戦時中のひさんな出来事を学び、戦争は絶対にやってはいけないということを再確認することができました。南九州市に行って、人々とふれ合うことができた三日間は、私の宝物です。

来年は、南九州市の友達が北九州市に来る番です。その時はしっかりおもてなしをして、北九州市のすばらしいところを知ってもらおうと思います。